

地域活性化という「遊び」

42

京都市 福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

畳の上に大きなブルーシート。おしゃべりしながら山から採ってきた熊笹3枚に団子を包み

バラけないよう指で押さえながら棕櫚シュロの葉を細く裂いたものでくるくる巻いて

下まで来たところで結んで留めたらいつちよあがり。

本殿の傷みも激しく雪で倒木があったり

神社の境内が猪に荒らされたりと限界集落の小さな神社の夏祭りはまさに風前の灯ですが

昨年引き続き

移住希望の若者たちが

進んで手伝いに来てくれるなど今年も元氣よく開催することができました。

長 老は100歳までもう10年を米づくりから切ったというお歳ですが

山の斜面の草刈りまで僕ら以上と思えるほど

バッチリこなす超現役。

年齢を聞いて祭りに参加してくれたその若者たちが目を丸くするのも当たり前でしょう。

暑くなり雑草も梅雨の雨とともに勢いを増して

毎日のように草刈りが始まると

春頃元氣がありあまつていた若者たちもさすがにヘトヘト。

農村で暮らすということの現実が見えてくる頃です。しかし

集落のお年寄りたちはどこ吹く風。

一つ一つのスピードこそ若者より遅いのですが

カタツムリが進むように

じっくり根氣よく美しく

若者が目を丸くする年寄りの仕事



大きなブルーシートの上で共同作業。移住希望の若者が3名も参加してくれて賑やかです。



初参加のO君。いろいろ良い話が聞けたと大喜び。

コツコツと着実に野良仕事をこなしていきます。最初勢いのあった若者も気がつけば逆転されていて

「あれっ？」ということもしばしば。

そして仕事の仕上がりが美しいのです。

ただ美しいというか時間の蓄積が感じられるというか

うまく言い表せませんが

若者が勢いでザーツとやった仕事とは何かが違うんです。

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。



粽づくりが終わったら、みわ・ダッシュ村で食事して遊びます。今年は卓球も。このおじいちゃんは92歳、うちの子たちと互角に勝負。



この広くて急な斜面。僕らでも大変ですが、ここを刈ったのは卓球も上手な92歳。

面倒なこと
というのはいはり生きていく上で大切なことがほとんどで
そこで手を抜いてしまおうと後でもっと面倒なことになってしまおうので
本当に
解決を望むなら
集落のお年寄りの仕事のように
面倒でもコツコツと
時間をかけて取り組

んでいく部分も必ず必要になってくるから
逃げずにやりましょう
ということですが。
悪 い悪いと言いなながらも
今という時代どう考えても
お年寄りの生きた時代よりはるかに
良い条件が揃っています。
どんな面倒な問題も
そこに暮らす若者が
若者らしい自由で大胆な発想に加え
お年寄りの仕事のように
しっかりとじっくり根気よく長期にわたって取り組む気概を持てば
解決できないことは
何もないと思います。
昔の人に気概があったのか
その時代そうするしか選択肢がなかった諦めか
実際のところはもともとたくさんの方に話を聞かねばわかりませんが
理由はどうであれ
ここで粽を巻いているお年寄りが
今よりずっとずっと厳しい時代を
しっかりと生きてこられたことは
疑いようのない事実。
移住以来「あんたら家族からいつも
元気をもらってるよ！」
と言ってくれますが
ここでの暮らしから
実際に元気や勇気を頂いているのは
こちらの方が多いかもれません。



中身の団子を作るのは女性陣の仕事です。老いも若きもニコニコと。

みんなで粽ちまみをつくりながら
昔の話を聞くのですが
牛で田畑を耕うんしていた時代
雑草は牛の餌や圃場に入れる有機物
としてとても貴重な素材で
間違っても他人の畑の草を刈ろうもの
なら大変叱られ
今では嫌がられる広い法面のついて
いる田畑のほうが価値が高く
草刈りは義務というより権利で
奪い合いまであったそうです。
山の間伐も同じで
経済的にも循環の中にとっさり入っ
ていたから
間伐も価値を生むものとして
継続することができたし
それが結局

景観の維持や自然災害
獣害の予防にもつながっていたのだ
と思います。
今 では間伐も草刈りも
時間、労力、お金まで使って
無価値なものを生産するという
人間としてとてもつらい作業になっ
てしまいました。
しかも農村人口の減少で
状況は悪くなる一方。
考えるのも面倒になってくるほど
大変な問題ですが
面倒なことにとっさり取り組むとい
うのは大切なことです。
機械でできることを
昔に戻ってわざわざ手作業でしょう
ということではなく